



埼玉県のマスコット コバトン

ライブ・レター
Lib. Letter

2013 Autumn [9～11月]季刊

平成25年8月26日 通巻 第33号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

日本古代の豪族たち

～役人にして経営者にしてリーダー～

開催期間 : 平成25年8月27日(火)～11月21日(木)
場 所 : 埼玉県立熊谷図書館2階ロビー及び1階展示ケース

古代日本を統一した最初の政権は「大和朝廷(ヤマト政権)」であると言われています。いまだ謎の多い大和朝廷(ヤマト政権)ですが、その形態は、大王(天皇)を中心に、当時すでに各地にいた「豪族」たちが結び付いた「連合政権」であったといわれています。

今回の資料展示では、古代国家が形成される要の一つであり、日本各地の「リーダー」であり「有力な経営者」であった豪族たちにスポットを当て、関連資料の一部を御紹介します。

1 「古代の豪族」とは？

日本史の本、特に古代史の本をみると、よく「豪族」という言葉を目にします。「古代の豪族」というと、歴史に詳しい方は、「〇〇氏や△△氏といった、社会的な権力を持った人たちでしょう？」とすぐに思い浮かぶかもしれませんが。

しかし、思いの外、詳しい説明もないまま使用されていることもあるようです。一体、「豪族」とはどういう人たちなのでしょう。

『広辞苑 第5版』には、「地方に土着し、勢力を持つ一族」と説明されています。しかし、歴史学的に定義すると、もう少し難しいようです。

…遙か遠いその昔、日本に伝わった稲作は人々を漂泊漁獵の生活から定着農耕の生活へ

青木和夫氏の定義では…
社会的分業がまだ十分に展開していない時代
(日本史上の古代)に
①□農業を中心とする大規模な経営を
②□世襲的に営んでいた
③□有力者たち
(『豪族のくらし 古墳時代～平安時代』
田中広明著 すいれん舎 2008) p8 より

と大きく変化させました。

この大きな変化は、人々が一か所に定住し、協力して土地の開墾や灌漑をすることを必要としました。こうして、各地で人々が集う集落ができ、それらが連合してムラ、クニへと発展していったようです。

これら各地のクニには、代表するリーダーが存在したようです。このリーダーたちは政治権力だけでなく、宗教的な権威も併せ持っていたといわれています。そのことを象徴するものの一つが、4～5世紀を中心に築かれた前方後円墳であるといわれています。

「豪族」は、このリーダーを中心として「氏」という集団を形成し、担った役職や性質、観点などによって様々に分類することができるようです。

弘仁6(815)年に成立した『新撰姓氏録』の分類では…

- ① 皇別 大王(天皇)・王子から派生したと称する氏族
- ② 神別 高天原の神などを祖先神と仰ぐ氏族
- ③ 諸蕃 いわゆる渡来系氏族
- ④ 未定雑姓

に分けられています。

(『古代の豪族と社会』(松尾光著 笠間書院 2005) p10 より)

『新撰姓氏録』はいろいろな思惑が絡まってできた系譜といわれ、すべてが事実ではないようです。(松尾、前掲 p12)

また、最初はその地方の権力者であった豪族たちも、時代・状況とともに統一国家との同盟者・提携者となり、やがて朝廷の地方役人へと変わっていきます。

※展示資料とリストについて

- (1) このリストに掲載されている県立図書館資料は、展示期間中、貸出ができません。貸出は展示終了後から行います。予約、複写は可能ですので、カウンター職員にお問い合わせください。なお、雑誌のバックナンバーは貸出できないものがあります。
- (2) さきたま史跡の博物館の資料は貸出、複写ともにできません。
- (3) リストの表記方法は以下のとおりです。
図書：『書名』(著者名 出版者 出版年) [請求記号]
雑誌：「誌名 巻号」(出版者)

—このコーナーの展示資料—

(図書資料)

『古代の豪族と社会』(松尾光著 笠間書院 2005) [210.3/ㄅ]

『古代王権と列島社会』(狩野久著 吉川弘文館 2010) [210.3/ㄅ]

『古代豪族と武士の誕生』(森公章著 吉川弘文館 2013) [210.3/ㄅ]

『やまと・たける』(藤間生大著 角川書店 1958) [210.3/To49]

『古代日本の豪族』(門脇禎二〔ほか〕著 学生社 1987) [210.3/エ]

- 『日本律令制論集 上巻』
 (笹山晴生先生還暦記念会編 吉川弘文館 1993) [210.3/ニ]
 *武光誠著「『日本書紀』と古代豪族の系譜」を収録。
- 『饒速日・物部氏の原像』(加古樹一著 編集工房ノア 1992) [210.3/ニ]
 『飛鳥王朝と古代豪族』(渡辺英三郎著 新人物往来社 1973) [210.33/ウ]
 『大王陵と古代豪族の謎』(猪熊兼勝〔ほか〕著 学生社 1992) [210.3/エ]
 『人物探訪・日本の歴史 1 古代の豪族』(暁教育図書 1978) [D210.1/ジ]
 『古代史研究の課題と方法』(井上辰雄編 国書刊行会 1989) [210/コ]
 *井上辰雄著「古代王権と豪族 部民制を介してのスケッチ」
 小柴秀樹著「息長氏研究の動向と課題」を収録。
- 『日本の歴史 5 古代豪族』(児玉幸多〔ほか〕編 小学館 1981) [210/ニ]
 『岩波講座日本通史 第3巻 古代2』
 (朝尾直弘〔ほか〕編 岩波書店 1994) [210.1/イ]
 *長山泰孝著「国家と豪族」を収録。

(雑誌資料)

- 「歴史読本 1990年3月臨時増刊号」(新人物往来社)
 *「特集 古代豪族総覧」を収録。
- 「歴史読本 2005年7月号」(新人物往来社)
 *「特集 『古事記』『日本書紀』と謎の古代豪族」を収録。
- 「歴史読本 2009年8月号」(新人物往来社)
 *「特集ワイド 古代豪族をめぐる論点」を収録。
- 「歴史読本 2011年8月号」(新人物往来社)
 *「特集 古代豪族の正体」を収録。

2 「中央豪族」と「地方豪族」

互いに勢力拡大のために争ったクニ同士の中であって次第に台頭してきたのが、4世紀半ば頃に成立したとみられる大和朝廷(ヤマト政権)でした。

大和朝廷(ヤマト政権)は奈良地方を拠点とした国家ですが、いまだに謎は多く、その形成・成立に関しては、研究者や愛好家たちの間で諸説が唱えられているようです。

その初期は朝鮮半島の国家との交流や、日本武尊の東国遠征などによる国土平定に関する説話が有名なところですが、後期の5~6世紀頃には、次第に国家としての統治機構が整えられ、東国から九州に至る、広範囲にわたる勢力を持つに至ったようです。

この頃の様子を伝えるものの一つが、次の「3 さきたまの豪族~埼玉古墳群出土資料を中心に~」のコーナーで紹介する、稲荷山古墳(行田市)から出土した金錯銘鉄剣です。

大和朝廷(ヤマト政権)の国家組織は、大王(おおきみ:天皇)を頂点とし、氏姓制度と呼ばれる組織を通じた、豪族たちの連合政権のような形態だったようです。

この形態を構成した豪族たちは、大和朝廷(ヤマト政権)の本拠地で勢力を持っていた氏族や、朝廷の職務を担った氏族などの「中央豪族」と、朝廷や大王(天皇)・中央豪族の所有する土地を管理したり宮廷の警備にあたるなど、大王(天皇)の元に服属し、地方の「首長」としてその地域を支配した「地方豪族」とに分かれていったようです。



豪族の姿を示す埴輪の武人

「だいたい大和朝廷は、畿内（近畿地方中央部）という一地方の地方豪族が連合してつくりあげた政権ではないか。」

（『日本の歴史 5 古代豪族』青木和夫著 小学館 1974）p54

—このコーナーの展示資料—

○中央豪族に関する資料

（図書資料）

『考古資料と歴史学』（国立歴史民俗博物館編 吉川弘文館 1999）[210.025/コ]

『大和の豪族と渡来人』（加藤謙吉著 吉川弘文館 2002）[210.32/ヤマ]

『ヤマト王権のあけぼの』（上田正昭編 作品社 2003）[210.32/ヤマ]

『古代物部氏と『先代旧事本紀』の謎』

（安本美典著 勉誠出版 2003）[210.3/コ]

* 白石太一郎著「古墳から見た古代豪族」

平川南著「古代木簡から見た地方豪族」を収録。

『聖徳太子伝説』（和田萃編 作品社 2003）[210.33/シ]

『謎の豪族蘇我氏』（水谷千秋著 文藝春秋 2006）[210.3/ナ]

『蘇我氏四代』（遠山美都男著 ミネルヴァ書房 2006）[210.3/カ]

『物部氏の研究』（篠川賢著 雄山閣 2009）[288.3/エ]

『蘇我氏とは何か』（前田晴人著 同成社 2011）[210.3/カ]

『葛城の王都南郷遺跡群』（坂靖著 新泉社 2011）[210.32/カ]

『古代葛城とヤマト政権』（御所市教育委員会編 学生社 2012）[210.32/コ]

『物部氏族の研究史料』（石上光太郎編著・刊 1978）[288/173]

『蘇我氏の実像と葛城氏』（平林章仁著 白水社 1996）[210.32/リ]

『物部・蘇我氏と古代王権』（黛弘道著 吉川弘文館 1995）[210.3/エ]

『蘇我氏と古代国家』（黛弘道編 吉川弘文館 1991）[210.3/リ]

『蘇我氏三代』（武光誠著 毎日新聞社 1993）[210.3/リ]

『聖徳太子はなぜ天皇になれなかったのか』

（遠山美都男著 大和書房 1995）[288.4/シ]

『物部氏の伝承』（畑井弘著 吉川弘文館 1977）[288.1/ハ]

『蘇我氏と大和王権』（加藤謙吉著 吉川弘文館 1983）[210.3/リ]

『消された王権・物部氏の謎』（関裕二著 PHP研究所 1998）[210/カ]

（雑誌資料）

『国立歴史民俗博物館研究報告 2001年第88集』（国立歴史民俗博物館）

* 森公章著「額田部氏の研究 畿内中小豪族の歴史」を収録。

「日本歴史 1984年5月号-1984年8月号(合本)」(吉川弘文館)

*6月号に、前川明久著「蘇我臣氏と大和川 古代豪族の河川管理と流域支配」を収録。

○地方豪族に関する資料

(図書資料)

『地方の豪族と古代の官人』(田中広明著 柏書房 2003) [210.3/林]

『古代豪族と渡来人』(大橋信弥著 吉川弘文館 2004) [210.3/コタ]

『古代瀬戸内の地域社会』(松原弘宣著 同成社 2008) [217.4/コタ]

『古代の地方豪族』(松原弘宣著 吉川弘文館 1988) [218/Ma73]

『古代国家と地方豪族』(米田雄介著 教育社 1987) [210.3/コ]

『日本古代の貴族と地方豪族』(藺田香融著 塙書房 1992) [210.3/ニ]

『九州文化論集 1 古代アジアと九州』

(福岡ユネスコ協会編 平凡社 1973) [219/キ]

*平野邦雄著「九州における古代豪族と大陸」を収録。

『古代貴族と地方豪族』(野村忠夫著 吉川弘文館 1989) [210.3/コ]

『日本文化史学への提言』(和歌森太郎編 弘文堂 1975) [210.01/ニ]

*鶴岡静夫著「地方豪族と古代寺院」を収録。

『古代東国の風景』(原島礼二著 吉川弘文館 1993) [S202/コ]

『継体天皇と即位の謎』(大橋信弥著 吉川弘文館 2007) [210.3/ケ]

『古代東国の王者 改訂増補版』(熊倉浩靖著 雄山閣 2008) [288.3/コタ]

『古代因幡の豪族と采女』(石田敏紀著 鳥取県 2011) [217.2/コタ]

『紀氏の研究』(寺西貞弘著 雄山閣 2013) [288.3/キ]

『継体大王と尾張の日子媛』(網野善彦〔ほか〕編 小学館 1994) [210.32/ケ]

『謎の巨大氏族・紀氏』(内倉武久著 三一書房 1994) [210.3/ナ]

『東国と大和王権』(原島礼二編 吉川弘文館 1994) [S203/ト]

(雑誌資料)

「別冊太陽 2005年8月22日号」(平凡社)

*「九州豪族とヤマト政権」を収録。

「日本私学教育研究所紀要 1990年12月号」

(日本私学教育研究所:浦図所蔵)

*長瀬仁著「日本古代地方豪族の研究 古代美濃国の地方豪族」を収録。

「日本史研究 1961年5月号」(日本史研究所)

*原島礼二著「大和政権と地方豪族 関東地方の屯倉を例として」を収録。

「日本歴史 1973年1月号-4月号(合本)」(吉川弘文館)

*3月号に、長家理行著「古代中小豪族の考察 忍海氏について」を収録。

「歴史研究 2010年11月号」(歴研)

*大谷光男著「古代豪族阿曇氏の系図は何処に」を収録。

3 さきたまの豪族～埼玉古墳群出土資料を中心に～

特別寄稿

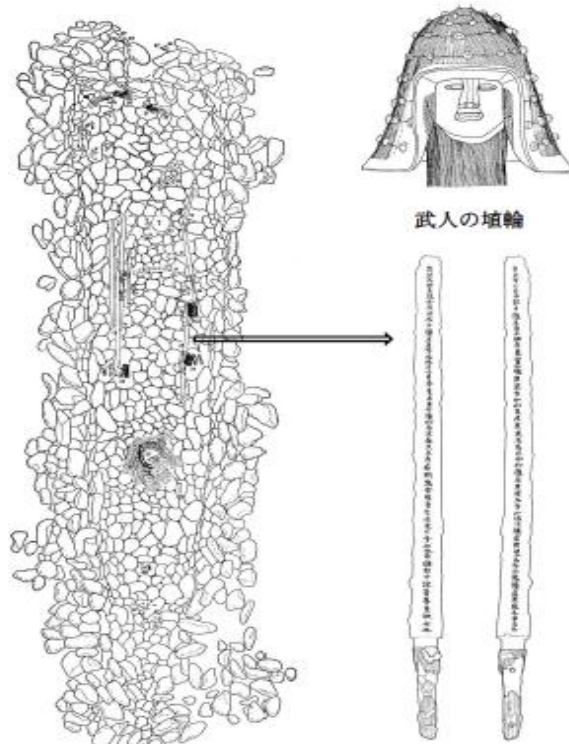
栗島義明（埼玉県立さきたま史跡の博物館学芸主幹）

埼玉古墳群は埼玉県の北部、荒川と利根川に挟まれた大宮台地の北端部に近い行田市埼玉にある、8基の前方後円墳と1基の円墳によって構成される日本有数の巨大古墳群です。

埼玉古墳群の特徴は、巨大古墳がまとまって造られていること、しかも前方後円墳の軸がほぼ南北方向に在り、どの古墳も二重の堀と造り出しという付属施設を持っている点で強い共通性を持ちます。それまで古墳が造られていなかった関東の中央部に5世紀後半に突如として出現し、約150年間にわたって造られ続けた後に忽然と姿を消した埼玉古墳群は、現在でも多くの謎に包まれているのです。

埼玉古墳群のなかで最初に造られたのが有名な115文字の刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてつけん）を出土した稲荷山古墳です。辛亥年（しんがいのとし）という年号が刻まれていたことから、この鉄剣が西暦471年に製作されたことが明らかです。この鉄剣と共に墓には太刀や冑、弓矢や槍のほか鞍（くら）や杏葉（ぎょうよう）、轡（くつわ）などきらびやかな馬具も出土しており、稲荷山古墳に葬られた人物が中央の大和政権と強い結びつきをもった豪族であったことは間違いないでしょう。埼玉ではこの後に丸墓山古墳や二子山、鉄砲山古墳など100mを超す巨大古墳が次々に造られてゆきます。

稲荷山古墳から遅れること約100年、稲荷山古墳の南東に造られたのが將軍山古墳です。意外にも埼玉古墳群の中で埋葬施設が調査されたのは稲荷山古墳とここだけで、明治27年の調査で鈴、鐙（あぶみ）、杏葉、雲珠（うず）、轡、鞍などの馬具のほか、美しい飾り太刀、銅わん、ガラス小玉や耳飾など多くの遺物が出土しました。馬具の中には朝鮮半島で製作された馬冑（ばちゅう）や馬に付ける旗竿用の金具（蛇行状鉄器：だこうじょうてつき）など全国的に見ても非常に貴重な馬具が出土しています。畿内の遺物だけでなく、貴重な朝鮮半島系の遺物も副葬されていることから、ここに葬られた人物が傑出した豪族であったことを示しています。



稲荷山古墳の埋葬施設と発見された鉄剣

今回の資料展示は、以下の展覧会とコラボレーションして実施しています。

■企画展「古代の豪族～将軍山古墳とその時代～」

■主催・会場 埼玉県立さきたま史跡の博物館

行田市埼玉4834 TEL (048)559-1111

■会期 平成25年9月21日(土)～11月17日(日)

当館で展示する写真パネルのほか、企画展で出品される博物資料も併せてお楽しみください。

—このコーナーの展示資料—

【さきたま史跡の博物館 所蔵パネル】

(2階ロビー 将軍山古墳関連パネル)

「石室調査風景」

「周堀から出土した埴輪」

「古墳復元(埴輪列)」

「埋葬施設の復元風景」

「将軍山古墳出土の遺物」



(1階展示ケース 稲荷山古墳関連パネル)

「金錯銘鉄剣」

「礫槨(埋葬施設) 検出状態」

「礫槨(埋葬施設) 発掘調査風景」

「礫槨(埋葬施設) 遺物検出状態」

「礫槨(埋葬施設) 遺物取り上げ風景」

「礫槨(埋葬施設) の復元図」

史跡の博物館企画展
「古代の豪族—将軍山古墳と
その時代—」とコラボレー
ションした展示です。企画
展で博物館の資料もお楽し
みください。

【熊谷図書館 所蔵資料】

(図書資料)

『埼玉県の歴史』(田代脩〔ほか〕著 山川出版社 1999) [213.4/サ1]

『鉄剣銘—五文字の謎に迫る・埼玉古墳群』

(高橋一夫著 新泉社 2005) [213.4/テ7]

『鉄剣銘文と古代国家』(大和書房編 大和書房 1979) [210.2/D28]

『古代天皇制と社会構造』(竹内理三編 校倉書房 1980) [210.3/コ]

*佐々木虔一著「将門の乱と東国豪族 とくに武蔵武芝を中心として」
を収録。

『将軍山古墳』

(埼玉県立さきたま資料館編 埼玉県教育委員会 1997) [S261/シ3]

『古墳時代の馬の装い』(埼玉県立さきたま資料館 1997) [S261/コ7]

『古代金石文と倭の五王の時代』

(埼玉県立さきたま資料館 1998) [S261/コ4]

『ここまでわかった!稲荷山古墳』

(埼玉県立さきたま資料館 1998) [S261/コ3]

- 『武蔵埼玉稻荷山古墳』
 (埼玉県立さきたま史跡の博物館編 埼玉県教育委員会 2007) [S261/コ]
- 『埼玉古墳群』(埼玉県 2007) [S261/キ]
- 『古代の武蔵』(森田悌著 吉川弘文館 1988) [S203/コ]
- 『埼玉県史研究 第3号』(埼玉県 1979) [S201/キ]
- *大村進著「古代豪族武蔵武芝の歴史的な性格について」を収録。
- 『古代東国の武人たち さきたま古墳群とその時代』
 (埼玉県さきたま資料館 1989) [S261/コ]
- 『埼玉稻荷山古墳』(埼玉県教育委員会 1980) [S261/キ]
- 『鶴ヶ島研究 2』(鶴ヶ島町史編さん室 1985) [S229/ツ]
- *玉利秀雄著「若葉台遺跡とその周辺 入間郡の豪族」を収録。
- 『関東に大王あり 稻荷山鉄剣の密室』(古田武彦著 創世記 1979) [S261/カ]
- 『関東の古代社会』(遠藤元男編 名著出版 1989) [S203/カ]
- *水野祐著「稻荷山古墳出土鉄剣銘の文化史的意義と、東国古代史への一考察」
 大塚初重著「房総の古墳と古代豪族」
 段木一行著「武蔵国における古代末期開発領主層の一動向 秩父氏庶流の進出をめぐる」を収録。
- 『古代東国史の研究』(金井塚良一著 埼玉新聞社 1980) [S203/コ]
- 『古代東国の原像』(金井塚良一編 新人物往来社 1989) [S203/コ]
- 『埼玉古墳群と稻荷山古墳の鉄剣』
 (大沢俊吉著 行田文化資料研究会 1978) [S261/キ]
- 『さきたま風土記の丘稻荷山古墳発掘概報』
 (埼玉県教育委員会 1969) [S261/キ]
- 『埼玉稻荷山古墳』(中堂観恵〔著〕 東洋書林 1981) [S261/キ]
- 『さきたま古墳群と北武蔵の農具』
 (埼玉県立さきたま資料館 1986) [S261/キ]
- 『さきたまの古墳と民俗』
 (埼玉県立さきたま資料館 1995) [S261/キ]
- 『さきたまの古墳』(埼玉県立さきたま資料館 1992) [S261/キ]
- 『稻荷山古墳新聞切抜帳』
 (大沢俊吉編 大澤俊吉 [1980] : 浦和図書館所蔵) [S261/イ]
- 『将軍山古墳 1～2』
 (埼玉県立さきたま資料館 [2004] : 浦和図書館所蔵) [S261/シ]
- 『毛野の王者獲加多支鹵大王』
 (藤井政昭著 私家版 2009 : 浦和図書館所蔵) [S261/ケ]

(雑誌資料)

- 「月刊歴史手帖 1976年2月号」(名著出版)
 *大村進著「豪族武芝氏の領主構造とその系譜」を収録。
- 「月刊歴史手帖 1989年9月号」(名著出版)
 *金井塚良一著「埼玉将軍山古墳の馬冑」を収録。
- 「埼玉県立博物館紀要 1990年 16」(埼玉県立博物館)
 *関義則著「埼玉将軍山古墳出土の蛇行状鉄器」を収録。

4 豪族のくらし～居館跡の発見から～



群馬県伊勢崎市原之城遺跡の居館（復元図）
『再現・古代の豪族居館』（国立歴史民族博物館
1990）p35より

クニの農業や漁業といった経済・産業を取り仕切り、宗教的権威を併せもち、一方で国家の役人としての顔ももって権力を誇った豪族たち。豪族たちの、権力者としての栄華はどれほどのものだったのでしょうか。また、暮らしぶりはどうだったのでしょうか。

それまで、豪族の家や暮らしぶりは文献史料に基づいて考えられてきました。しかし、古代の文献史料は謎も多く、また、史料の作者の意図と史実の判別が難しいということもあります。どこまでが史実で、どこまでがフィクションか…。そのような問題が、「古代史のロマン」を生む一因かもしれません。

そのような中、一つの転換点がやってきます。

1981年、今の群馬県高崎市で調査が進められていた「三ツ寺遺跡」で、それまで文献史料や埴輪でしか窺い知ることのできなかった「豪族の家」が、初めて発掘されたのです。

これを機に、東北～九州にいたる各地で、豪族の家（居館）の跡や出土品が急速に発見されていきます。これらの発掘の成果は、各地方の比較や文献史料との対比によって、今までと違う豪族たちの姿を見せてくれるのかもしれません。

—このコーナーの展示資料—

（図書資料）

『展望日本歴史 4 大和政権』（東京堂出版 2000）[210.1/㊦]

*小笠原好彦著「家形埴輪の配置と古墳時代豪族の居館」

岸俊男著「画期としての雄略朝 稻荷山鉄剣銘付考」を収録。

『古代豪族居宅の構造と機能』

（国立文化財機構奈良文化財研究所 2007）[216.5/㊦]

『豪族のくらし』（田中広明著 すいれん舎 2008）[210.3/㊦]

『再現・古代の豪族居館』（国立歴史民俗博物館 1990）[210.2/㊦]

『高殿の古代学 豪族の居館と王権祭儀』

（辰巳和弘著 白水社 1990）[210.3/㊦]

『岩波講座日本通史 第2巻 古代1』

（朝尾直弘〔ほか〕編 岩波書店 1993）[210.1/㊦]

*都出比呂志著「古墳時代の豪族居館」を収録。

5 古代の豪族を知るために

各クニの独立した有力者から、大和朝廷の中央支配と提携する実力者、そして、地方行政の役人へ…。「豪族」と呼ばれる人々も、時代状況や時の社会制度とともに、内実は様々に変化していったようです。

その中でも、氏姓や役職といった制度は、日本の古代国家の形成や運営における豪族の立場や役割、盛衰と密接な関わりがあるようです。

—このコーナーの展示資料—

(図書資料)

『古代の地方官衙と社会』(佐藤信著 山川出版社 2007) [210.3/ㄉ]

『古代史研究の最前線 第1巻 政治・経済編 上』

(雄山閣出版 1986) [210.3/Ko17]

*篠川賢著「国造と県主」

山口英男著「地方豪族と郡司制」を収録。

『講座日本史 1 古代社会』

(歴史学研究会編 東京大学出版会 1982) [210.1/ㄱ]

*宮原武夫著「農民闘争と豪族」を収録。

『日本古代国家史研究』(原秀三郎著 東京大学出版会 1980) [210.34/ㄴ]

*「第四篇 律令国家と地方豪族 郡司制の成立と展開を中心に」を収録。

『岩波講座日本歴史 3 古代3』

(家永三郎〔ほか〕編 岩波書店 1962) [210.1/ㄷ]

*岸俊男著「律令体制下の豪族と農民」を収録。

『論集日本歴史 1 大和政権』(有精堂出版 1976) [210.1/ㄹ]

*阿部武彦著「国造の姓と系譜」を収録。

『日本古代・中世史の地方的展開』

(豊田武教授還暦記念会編 吉川弘文館 1973)

*新野直吉著「軍防令制と地方豪族」を収録。

上記以外にも、県立図書館では豪族や日本古代史に関連する資料を所蔵しています。
お探しの資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



この夏、あなたも学びすとSaitama
埼玉まなびいプロジェクト協賛事業
県民の日・彩の国教育の日協賛事業